

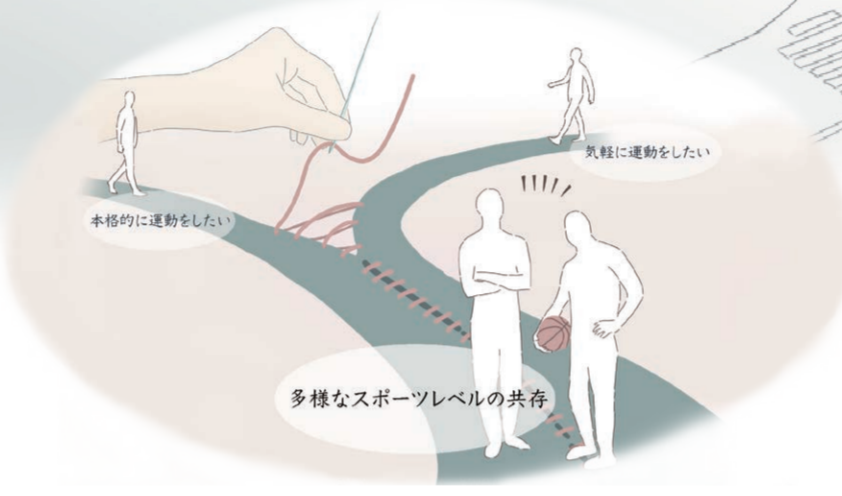
街とスポーツを縫う高架下

高架下から始まる

スポーツは「遊戯」から「他人との競争」に至るまで幅の広さを持ち、その上人によってスポーツへの接し方は異なる。

例えば、趣味でサッカーをしている人もいればサッカーを職業としているプロのサッカー選手もいる。

そこで、スポーツに対する接し方や難易度といった「スポーツレベル」の多様さと高架下という特徴的な立地条件に着目し、誰もが楽しめるスポーツ空間を提案する。



①高架下の現況

対象地は、東京都江戸川区松本1丁目・2丁目の間に松本連続陸橋の高架下にある松本第一・第二・第三児童遊園。以下「松本児童遊園」という。

- 1) 課題 「暗い」「デッドスペースになりやすい」
- 2) 長所

松本児童遊園の形は南北に細長く、方形に配置するよりも街との接地境界面が大きくなることから、高架下の空間には人々がスポーツに触れる・目にする機会を増やすポテンシャルを持っている。屋根があるため、雨天時でも利用可能。さらに高架は至る所にあるため、この提案は他の高架下にも適用できる。

②提案



③10年後のスポーツ像

- 地域のスポーツ施設外（高架下、河川敷、道路、建物の屋上など）でも、活動する地域スポーツクラブ・サークルが増えている。⇒運動する場所も限られた場所ではなく、多様化していると考えられる。
- 新しいデザインのスポーツ空間かつ、その空間でニュースポーツと言われている競技を推進している場所がそれぞれの都道府県に1つ以上作られている。
- 【成人の週に一回以上スポーツをする割合】65%以上
【児童・生徒が1週間で運動する時間が60分未満の割合】6%以下になっている。

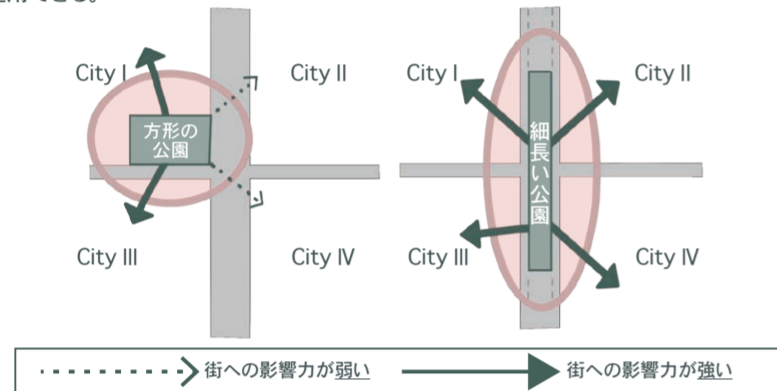
「Hop! Step!! Jump!!!」

①Hop! ... 日常生活に取り入れやすいスポーツ（通勤通学にも取り入れやすい散歩やウォーキングなどの最も気軽に始められる運動）

②Step!! ... 遊びでのスポーツ（クライミングなどアスレチック的な遊び要素のある、親しみやすい運動）

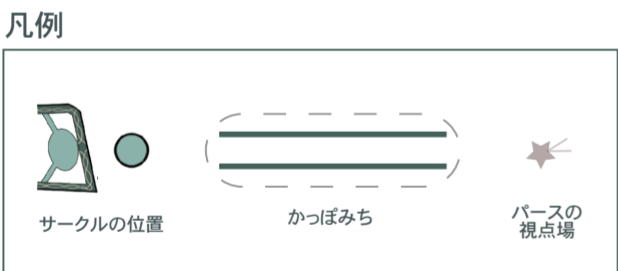
③Jump!!! ... 本格的・競技的なスポーツ

左図の3つのスポーツ像・目標を達成するために『Hop! Step!! Jump!!!』という考え方を生み出した。



④空間デザイン案

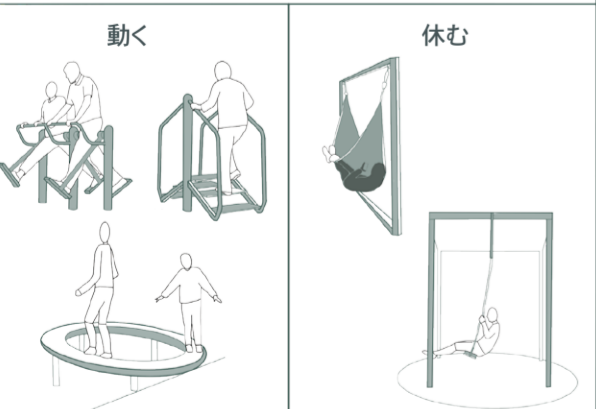
『松本スポーツ公園』



【毎日の生活ルーティーンに+α運動できるスポット】

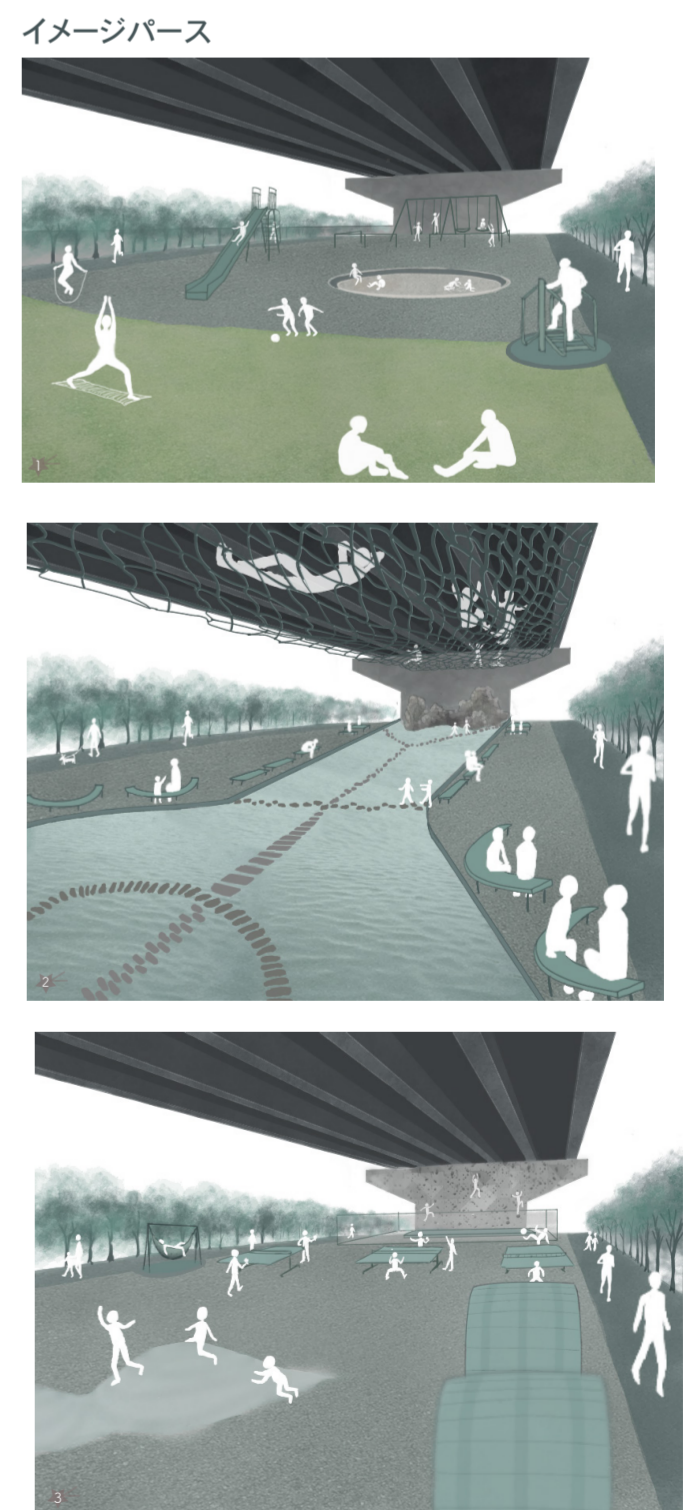
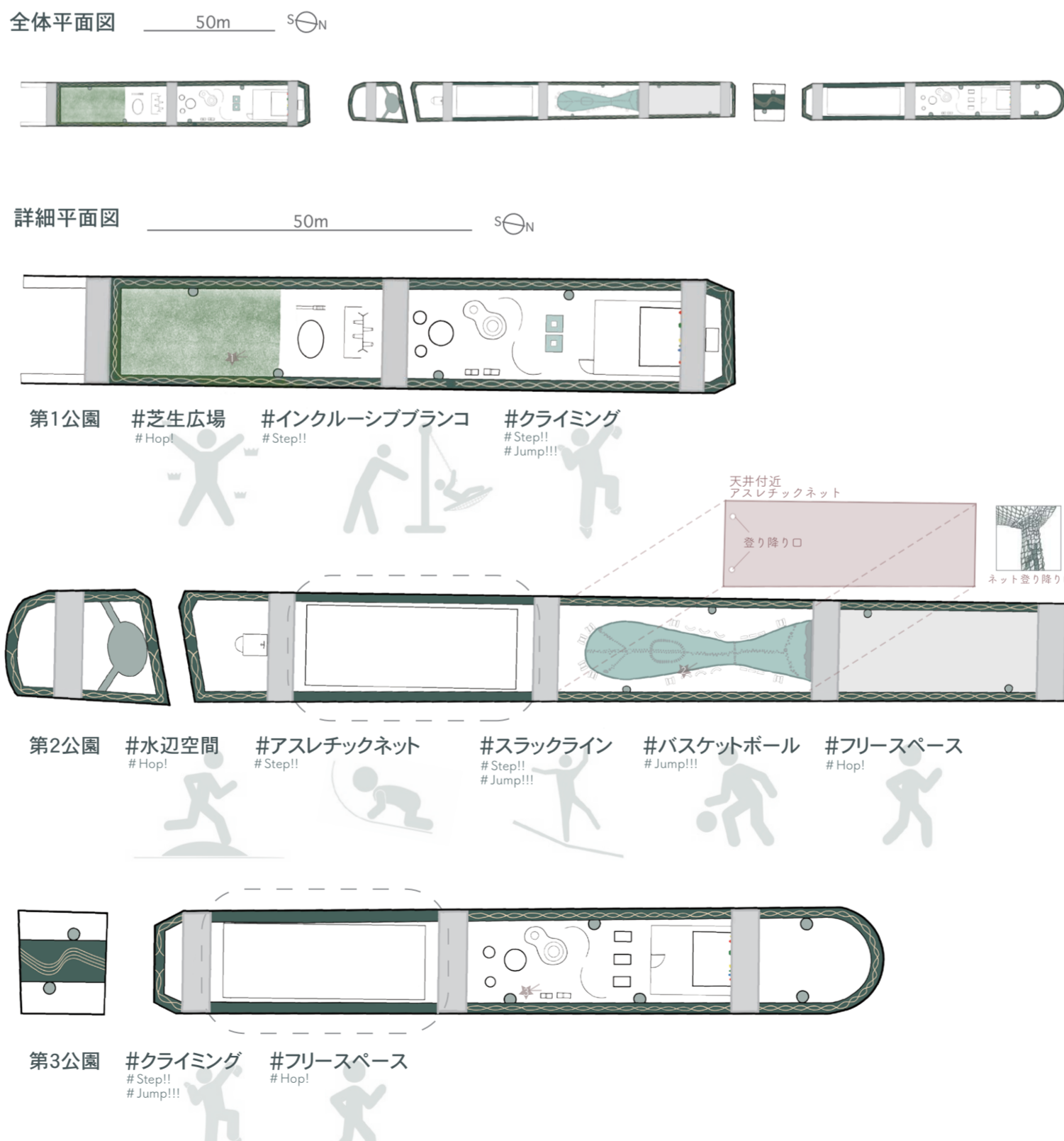
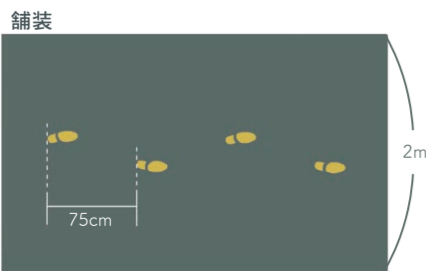
1) サークル
毎日同じウォーキングコースを歩くのはつまらない。そこで、運動器具や休憩ができるファニチャーが一つずつ設置されている「サークル」という空間をウォーキングコース沿いに作る。サークルを作ることで、「いつものウォーキングにサークルをカスタムすることで、沢山の運動ルーティーンを作ることができる」といったような、多様な運動の仕方を作る鍵となる。

「サークル」に配置する運動器具やファニチャーの種類



2) かつぼみち (闊歩道)

普段の歩幅よりも大きめに歩くことで足の筋肉を鍛えることを目的としたゾーン。このゾーンの舗装デザインは歩幅が75cmの黄色い足跡で表している。



⑤この公園の将来像

この提案の目指す空間は、普段の運動習慣がない人も気軽に始められる地域スポーツを推進し、しっかりと運動がしたい・競技スポーツを楽しみたい人も共存できるような空間である。さらに、高架下というデッドスペースになりやすい場所を有効利用し、スポーツ機会を増やす。地域住民の意識を含めたスポーツ環境を整え、この対象地だけでなく全国各地の高架下にも広めたい。さらに10年後、スポーツが今よりもっと身近な存在になることを期待している。

